



農林水産省改革の実践 ～真のプロフェッショナルを目指して～

林野庁 国有林野部 管理課長 新井 毅

冷戦構造の終結、グローバル化・IT化・フラット化の進展、右肩上がりの経済成長の終焉、少子・高齢化、物理の時代から生命科学(フロー)の時代へ…

ここ十数年、日本社会を取り巻く情勢は、後の歴史家が時代のターニングポイントと評するであろう程に、大きく変わってきました。

合理的な説明のできないいきたり、既得権は、経緯のいかに係わらず、見直しを迫られ、人為的なものに永久・絶対はないという認識が一般化しました。

大変な時代になったと思います。以前は、よくわからなかったらその道の権威に頼ったり、前例に従って身内の中で大過なく済ませておけばよかったのに、今は、すべての言動について説明責任が求められ、それに応えるために関係するあらゆることに、目を配らなければいけなくなったのですから。



職員の皆さんは、昨年来、それぞれの立場で農林水産省改革に取り組み、自らの業務のあり方の見直しを進めておられることと思います。

この省改革において、職員の行動の指針となるのが、ビジョンステートメントに掲げられた「生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちに継承していく」という農林水産省の使命であり、「つかんでいますか、向き合っていますか、想像していますか、創造していますか、挑戦していますか、変えていますか、愛していますか」という職員行動規範です。

この行動規範は、実は、冒頭述べた時代認識と重なり合うものですが、これを実際の行動につなげるのは、本当に大変なことです。

最近の、若者の尊敬する人物、なりたい人物をみると、例えば、イチロー、羽生名人、茂木健一郎、勝間和代、ビル・ゲイツといった方々が挙げられます。

彼らに共通しているのは、自分の専門分野を極める過程で、過去の経緯や業界内の常識に拘らず、自分の世界を広げることにより、真のプロフェッショナルとなり、その結果、他の世界にも通用する人物になってきたということであり、最初から広い分野で活躍しようと考えていたわけではありません。

私たちは、国民から国有林という貴重な財産を預かっており、その管理経営という重要なミッションを背負っています。この任務を全うするには、各自がプロフェッショナルの名に値する仕事をする必要があります。そのためには、常に問題意識を持ち、縦割りや既存の考え方への拘泥を排して、必要な改善を行い続けなければなりません。行動規範を意識して仕事に取り組むこと、これが尊敬される真のプロフェッショナルにつながる途であり、重要なミッションを果たすことにつながっていくのだと思います。



平成21年度海外技術研修「持続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」実施中！

今年も海外技術研修が始まりました。8月24日から11月6日まで、75日間の長い研修です。今年は、ブラジル、ブルキナファソ、カンボジア、中国、コロンビア、エチオピア、ケニア、ラオス、マラウイ、ミャンマー、フィリピンの11カ国、12名が参加しています。現在2回目のスタディツアーも終え、12名全員が元気いっぱい毎日の講義に熱心に取り組んでいます。皆とても意欲的で、講義の後には質問が次々と飛び出し、講義が予定通り進まないこともあります。



～山形県
金山町で
栗田ご夫妻
と一緒に～

当研修では「持続可能な森林経営の実践」に向けて、
(1) 持続可能な森林経営の基準指標、(2) 森林資源モニタリング手法、(3) 国家森林計画の立案手法、
(4) 参加型森林経営手法の4つの分野において、国際的な森林管理の動向、わが国における森林管理手法、現場における先進的な取組等を学びます。

研修は、座学と現場視察を繰り返し、長い研修期間を効果的、かつ疲れをためないようなスケジュールを準備しています。研修の最後には、「アクションプラン」として当研修を受けて、帰国後の活動計画を作成することにしています。現在は座学の他、スタディツアー1〔森林総合研修所（林木育種場を含む）での講義と実習。〕、スタディツアー2（藤里森林センター、金山町での見学）を終えています。

~~~~~各研修生にスタディツアーの感想を聞いてみました~~~~~

●名 前 \_\_\_\_\_ (国 名)

●フランスコ ガスパレト ヒグチ (ブラジル)

スタディツアーの中でアレルギーの人のために花粉の作られないスギがどの様に開発されるのかを見ました。すべての講義は丁寧で、ベストを尽くして説明してくれます。すべてが素晴らしい。

●キリ ボウェサン ネストール (ブルキナファソ)

育種技術や林産物の研究を学びました。白神山地では森林管理手法を見ることが出来ました。各地での討議を通して知識を得られました。

●ヘン キムチャイ (カンボジア)

白神山地では世界遺産の保管理を知ることが出来ました。その中で多くの人々がボランティアで保全に取り組んでいることを知りました。学んだことを自国で活かしたい。

●リ ハイジュ (中国)

素晴らしい教育環境、指導方法、講師も受講生も素晴らしいです。

●ゴンザレス パラツィオ モニカ パトリシア (コロンビア)

ツアーで訪れたところが東京と大分違うことに驚かされました。小さな町並みや森の中を歩きながら自分の国を含めて、世界中のどんな場所より、思いもよらないところだと思いました。

●メレセ デمام メスフィン (エチオピア)

複層林の森を見ますとこれまでの努力が感じられます。また、聞き知っていたブナが広がる、白神の森は丁寧に管理されていて私に素晴らしい体験をさせてくれました。

**●ワロ エルギ アルブク (ケニア)**

皆と一緒にスタディツアーに参加したので、日本の森林を見るばかりでなく、世界中の森林を知ることが出来ました。

**●フォンタボン シンサムー (ラオス)**

色々な所を見て、森林地区、農業地区、住宅地区のための区分けがとてもうまく計画されていると感じました。

**●ステリア シピリロ モラ (マラウイ)**

発展途上国への支援に熱心なことに勇気付けられます。それは私たちが必要な知識を高めるための力となります。

**●チグウィア ジョゼフ ジョナサン (マラウイ)**

スタディツアーを通じて、つぎ木のやり方、またジーンバンクを見ることが出来感銘を受けました。

**●トン チン (ミャンマー)**

訪れた所で、多くのことを学びました。金山町では、スギがこの地域を特別なものになっていることを知りました。また森林オーナーの栗田さんからカエデの木の他用途の利用の仕方を学びました。

**●アリベロス フェ カルピオ (フィリピン)**

金山町の栗田さんの「森のことを考えるならビジネスから離れなくてはいけない。」という言葉に心を動かされました。彼の言葉は、良心と経済のバランスを取り戻そうとすることを簡潔に表しています。

## 研修紹介「治山（中堅）Ⅰ」

本研修は、山地治山に関する高度な専門的知識及び技術の習得を目的に、都道府県及び森林管理局・署の中堅の治山事業担当者54名を研修生に迎え、7月14日（火）から4日間の日程で実施しました。

毎年のように豪雨や地震による土砂災害が発生する中で、如何に災害の被害を低減するかが治山事業の重要な課題であり、他方で、治山工事への間伐材の利用推進や、生態系保全への留意が求められています。これらを踏まえ、本研修では治山事業における今日的課題や、山地災害の発生メカニズム、危険性の判定といった治山技術に関する講義、生態系保全と緑化工の課題や多様な森林整備に関する講義等とともに、大規模山地災害への対応に関して新潟県の治山課課長補佐による中越地震災害における対応についての講義を行いました。

研修生の評価は概ね高く、特に新潟県の治山課課長補佐による講義は、実際に起こった災害への対応に関するものであり、実体験に基づき現場に即した内容であることから「大変参考になった」、「将来役立つ」といった声が多く聞かれました。

また、山地災害対応や木材利用推進、生態系保全等をテーマとして課題研究を行いました。討議時間が短いとの声が多く寄せられました。次年度に向けては一層効率的・効果的な課題研究となるよう、カリキュラムを検討していきたいと思っております。

# 研修を受講して〈1. 生産・販売研修〉

## 1. 生産・販売研修 〈平成 21 年 8 月 17 日～9 月 11 日〉

北海道森林管理局 旭川事務所 荒川 和也

低コストかつ効率的な素材生産や市場の需要動向に対応した採材といった林産物の有利販売を推進、適切な収穫業務や木材の生産・流通・加工に関する実際的な知識及び技術を習得するため、全国から14名が集まり26日間に渡り講義と実習が行われました。

研修は、生産・販売事業における基本的事項から始まり林業機械化センターにおける低コスト路網の線形調査・作設、事業体の素材生産現場での生産性向上に向けた取り組み、製材工場における木材流通・加工への取り組みを学びました。



～機械化センター職員の指導の下、機械を動かす～

機械化センターでは2週間に渡り、高性能林業機械の操作体験をはじめ、現在、林業経営に求められている低コストで効率的な作業システムに向けた基軸となる低コスト路網について実習を中心に学びました。

低コスト作業路技術者養成研修と合同で行われた線形調査では、機械を操作する側との意見交換を交えながら実際の現場で路線選定を行うことで、これまでとは違った視点から考えることができ大変勉強になりました。

路網作設では、作設にあたっての重要ポイントの指導を受け、チェーンソーによる支障木伐倒をはじめ、自らバックホウを操作しての作業路作設、木組による洗越の作設を体験しました。当然、操作経験のない我々は、さっぱり言うことを聞かない？バックホウ相手に四苦八苦、時には笑いも交えての作設となりました。

実際の現場では、それぞれの地域特性を考慮した低コスト路網の線形・作設方法を確立させていくことが重要であるとともに、事業体に対して指導する立場となりますが、自ら作設体験し、ポイントをおさえることで、これまで視覚的・文字的にしか理解していなかったことをより具体的に理解することができ大変有意義な研修となりました。

今後もこの研修が行われると思いますが、普段では出来ないことを身をもって体験でき、これから必要不可欠な「低コストかつ効率的作業」の林業の構築に向け、その方向性を我々職員が共有していくためにも是非受講されることをお勧めします。

最後になりましたが、今回の研修で講義をしていただいた講師、機械化センター職員、研修所職員の皆様、研修生の皆さんに大変お世話になりましたことをお礼申し上げます。

～(株)桐生林業の  
皆さんとの  
ディスカッション～



～協和木材(株)の  
佐川社長の話を  
真剣に聞く  
研修生たち～



# 研修を受講して〈2. 特用林産研修〉

## 2. 特用林産研修 〈平成 21 年 9 月 8 日～9 月 11 日〉

新潟県農林水産部林政課 矢田 望充

高尾駅からの緩やかな上り坂にある森閑とした環境にある研修所で、全国の都道府県の特用林産を担当している職員が集まり、錚々たる講師陣から受講できるということで大きな期待を持って臨んだ4日間でした。



講義の内容は、主に資料を基に進められました。全国の特用林産の現状や課題、生産管理手法、JAS 制度、竹林の育成と利用、木炭の状況、商品企画など広範な科目を聴講し、さらに製炭の取り組み、きのこ栽培では、現地研修として身延竹炭企業組合、秋山種菌研究所で実物を見ながらの受講でした。現地研修が3日目に設定されているなど、大変配慮されたカリキュラムとなっていることを感じました。

～身延竹炭企業組合で説明を受ける研修生たち、熱心に聞き入る姿～

また、特用林産全体をとおした研修を受ける機会中は中々なく、充実した内容でもあり、大変勉強になりました。今後もこのような研修を継続して行ってもらいたいと思います。

また、各研修生の皆様との懇親会においては、いろいろと参考になることを聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、今回の研修で講義をいただいた講師、研修所職員、研修生など皆様には、たいへんお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

### ●竹炭を活用したシャンプーの使い心地は？



### ●国産しいたけの栽培風景



みのりの秋♪





## 林業機械の体験研修等を実施

林業機械化センターでは、チェーンソーなどの小型機械、ハーベスタ・プロセッサなどの大型機械をレンタルなどによって保有し、各種の研修に使用しています。

こうした林業用機械は、林業事業体以外の行政組織や公共団体などではほとんど保有しておらず、一般にはほとんど見かけることもありません。

そこで、知識では知っていても実機を目にしたことのないこれらの機械に触れ、実際に材木の鋸断などの操作を体験する中で、林業に対する理解を深めていただくこととして、8月3日から5日には日本大学や京都大学などの42名、5日から7日までは東京大学や早稲田大学、宇都宮大学など25名の学生さんが林業機械体験に訪れました。

2回ともに、初日には刈払機によるキックバックの感触などを体験、2日目には高性能林業機械作業システムの体験として、スイングヤーダの先柱へのブロックの取り付けから、伐倒、集材、プロセッサによる枝払いと造材、フォワーダへの積み込みと運搬といった一連の作業に従事？、最終日にはチェーンソー伐倒と掛かり木処理に汗を流していただきました。



例年この研修を実施していますが、今年は人数も多く、女性が半数近くを占める中で実施したところで、男女の別なく全員が一通りの機械に触れ、実際に運転して機械の危険性や便利さを体感できたとともに、林業という産業の大変な面も見ることができて大変有意義だったとの感想がありました。今後、林業関係に進む学生さんはもちろん、他方面に進まれる方にも経験を役立てていただきたいと願っているところです。

また、地元沼田市の群馬県立利根実業高校グリーンライフ科の1年生80名もセンターを訪れ、林業の様子や機械の操作体験等を行っています。

今年は、6月と9月に20名ずつ4回に分けて来所し、センターの仕事や林業機械の開発の歴史などを見学するとともに、敷地内でリモコンのフェラーバンチャによる伐倒操作と、プロセッサでの造材操作を体験していただきました。

校外学習で2時間弱の時間しか採れないために、実習林まで足を伸ばすことが出来ず、展示棟の見学とセンターに存置している機械にしか触れることは出来ませんが、8割以上を占める女子生徒が12トンクラスのプロセッサに乗る希望が多く、クレーンゲーム感覚で材を掴み、チェーンソーで玉切りする際の迫力と爽快感？を楽しんでいました。



これらの体験を通じて林業や機械に興味を持っていただくことで、少しでも多くの林業就業者が誕生するよう、今後とも多くの若い人達の作業や機械体験を行うことに努めていきたいと考えています。

# 専攻科生の研修日記（7月～9月）

専攻科生として研修所に入所し早くも半年が経ちました。東京での生活には慣れてきたものの、課題研究や検定試験の勉強、講義の復習など一日一日がとても充実しており日々気を抜くことなく勉学にいそしんでおります。

7月以降の研修内容としては、英会話、文章表現法の講義のほか、森林の生態や森林土壌といった森林科学、労働法など法学の一般知識、森林総合研究所集中講義、ディベート等があり森林・林業に関する技術、政策分野の基礎知識を習得しました。

これまでの、講義の中から研修の様子をいくつかご紹介します。



## 『森林総合研究所集中講義（前期）』

7月中旬に森林総合研究所において、集中講義を受けました。森林植生や森林の役割、生物多様性の保全、害虫や獣害の防除など専攻科生が、最先端の研究や取り組みについての貴重な話を聴くことができました。また、現在取り組んでいる課題研究について、研究員の方から直接アドバイスをいただく機会が得られ大変有意義な1週間でした。

## 『森林土壌実習』

8月下旬に生原喜久雄講師（東京農工大学名誉教授）のもと、滝ノ沢国有林内において実習を行いました。この講義では土壌断面の層位の区分、層の推移状態、各層位の厚さ、土色、腐植、石礫、土性、構造、堅密度、水湿状態、根を調査し、これらの結果から土壌型の区分を決定し適地判定の資料とすることを目的として



おります。

土壌調査は皆初めてで、幅1m×深さ1mの土壌を掘るのに悪戦苦闘し、その土壌の断面と参考書を睨めっこしながら、それぞれの調査項目を正確に類別し、土壌型の区分を決定しました。

～「すごい土壌構造だ!!!」～

## 『労働法』

9月中旬に志賀直人講師（関西外国語大学教授）から、六法の使い方や条文の構成、法解釈のあり方、労働法の理念や目的等、また社会で実際に生じた判例を解説していただき知識、理解を深めました。

法的観点で問題を整理・分析し、解決へと導くための必要な知的なツールと思考力を習得することができました。



～志賀直人講師 「労働法」の講義風景～

今後も、専攻科研修生として森林・林業に関する知識、業務の適切な実行に必要な技術等の習得に切磋琢磨していきます。

## 救急処置法（AED）を学ぶ

毎年7月の安全週間において、当研修所職員を対象に実践的な行事を実施しています。

今年も、八王子消防署浅川支所から講師を招き、人形を用いてAED（自動体外式除細動器）の使用方法について、学びました。

AEDは、2004年7月より医療従事者でない一般市民でも使用できるようになり、駅や学校、公共施設等多くの人が集まるところを中心に設置されており、最近では、一般市民の方がAEDを使用した救命事例も増えてきました。

当研修所では、2年前からAEDを設置しており、緊急時に即座に対応できるように職員一人一人が熱心に受講しました。

また、その外にも三角巾を使用した止血方法等を学びました。今後も定期的に講習等を実施し、安全意識の向上に努めていきたいと考えております。



## インフルエンザに注意

今後予想される秋冬季の流行時の対策として、「37.5度以上の発熱、喉の痛み、咳、全身倦怠感等の症状が見られた場合の対応」と称して、対応マニュアルを作成しましたので、症状を訴える者が出た場合は、当マニュアルに即して対応して下さい。

各自が、正しい衛生知識を身につけ、日頃から「うがい・手洗い」を励行し、健康管理を徹底しましょう。

## 人事異動

(平成21年8月1日付け)

### 転出

林野庁森林整備部 研究・保全課 森林保険損害評価官 田原 明彦（技術研修課 研修企画官）

### 転入

技術研修課 研修企画官 山田 徹（農林水産技術会議事務局 研究専門職）

(平成21年10月1日付け)

### 内部異動

技術研修課 実施係長 丸橋 宗寿（林業機械化センター 機械化研修係長）

## 連絡先



林野庁 森林技術総合研修所 <http://www.rinya.maff.go.jp/kensyuu/index.html>

〒193-8570 東京都八王子市廿里町1833番地94

TEL 042-661-7121(総務課)

042-661-3560(教務指導官室)

042-661-3565(技術研修課)

042-661-3567(経営研修課)

FAX 042-661-7314



林業機械化センター <http://www.rinya.maff.go.jp/kikaika/index.html>

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1455

TEL 0278-54-8332(代表)

FAX 0278-54-8280